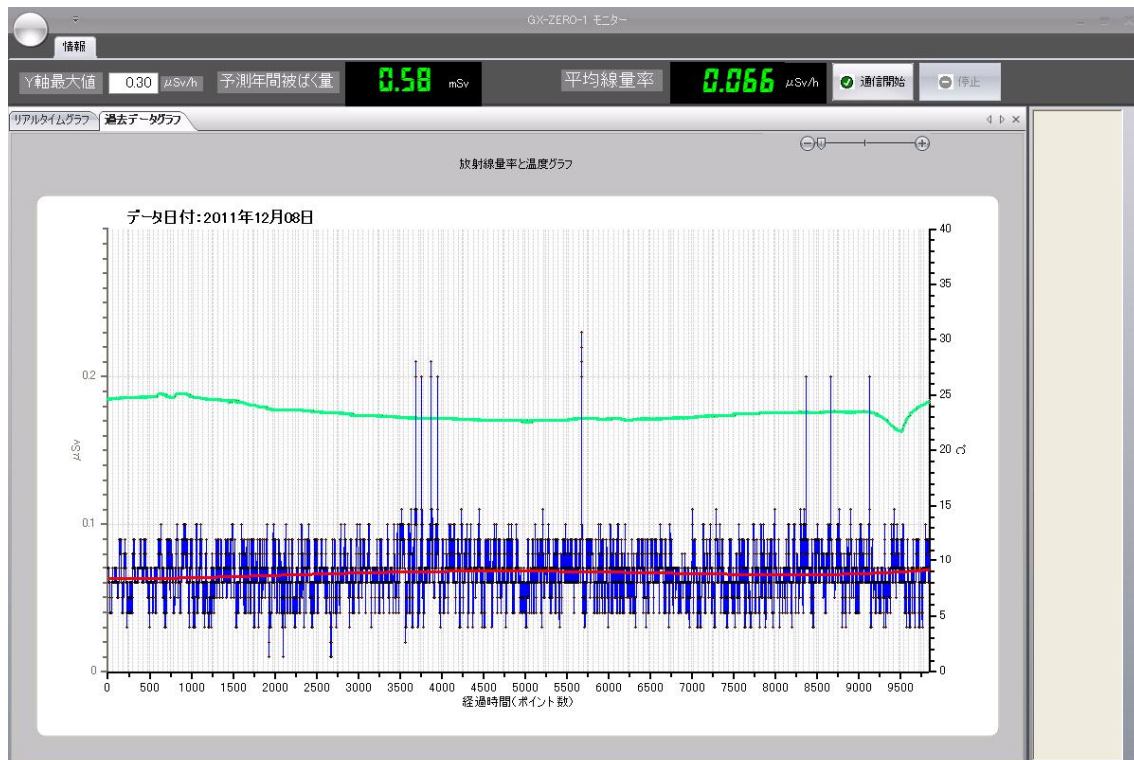


Radiation Sensor

GX-ZERO-1



パソコン用ソフト取扱説明書

Rev 1.0.0

2012/4/1



【目次】

1. セットアップ

弊社ホームページのダウンロードサイトから、セットアッププログラムをダウンロードします。

ダウンロードファイルは2種類ありますので、お客様のパソコンにより選択してください。

- ZIP 形式（拡張子が ZIP となっており、解凍ソフトが必要な場合があります）
- 自己解凍形式（拡張子が EXE 形式で、実行すると解凍されます。
（WindowsXP の場合はこちらを推奨します）

- GX-ZERO-1 グラフ表示パソコン用アプリ (ZIP形式 約2.4Mbytes)
- GX-ZERO-1 グラフ表示パソコン用アプリ (自己解凍形式 約2.5Mbytes)
 - .NET Framework 2.0 で動作します。(WindowsXP, Windows7)
 - 解凍後に「始めにお読みください.txt」を必ずお読みください。

画面上の「GX-ZERO-1 グラフ表示パソコン用アプリ」をそのままクリックするか、右ボタンを押して「名前を付けてリンク先を保存」を選択して、適当な場所にダウンロードしてください。

ダウンロード後は、ダウンロードしたファイルを選択してダブルクリックすると解凍されます。（Windows Vista、Windows 7）

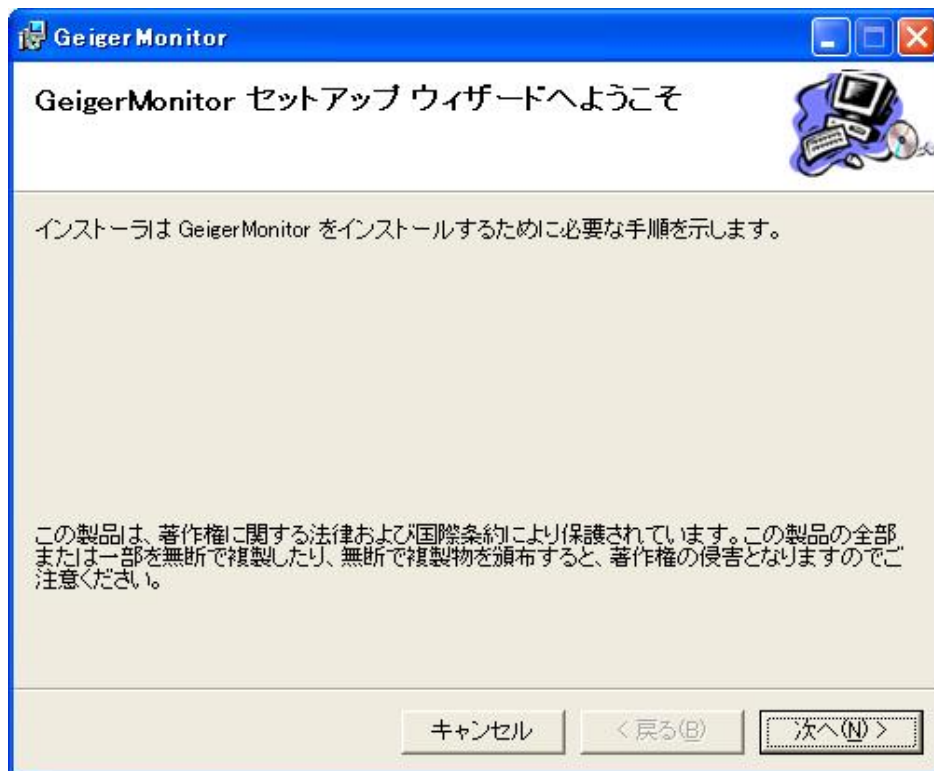
※ファイル上でマウスの右クリックで展開する方法もあります。

1.1. セットアップの開始

ダウンロードしたファイルを解凍すると、以下のファイルが入っています。

- (1) 始めにお読みください.txt
- (2) setup.exe
- (3) GeigerMonitorSetup.msi

setup.exe をダブルクリックすると、セットアップが始まります。



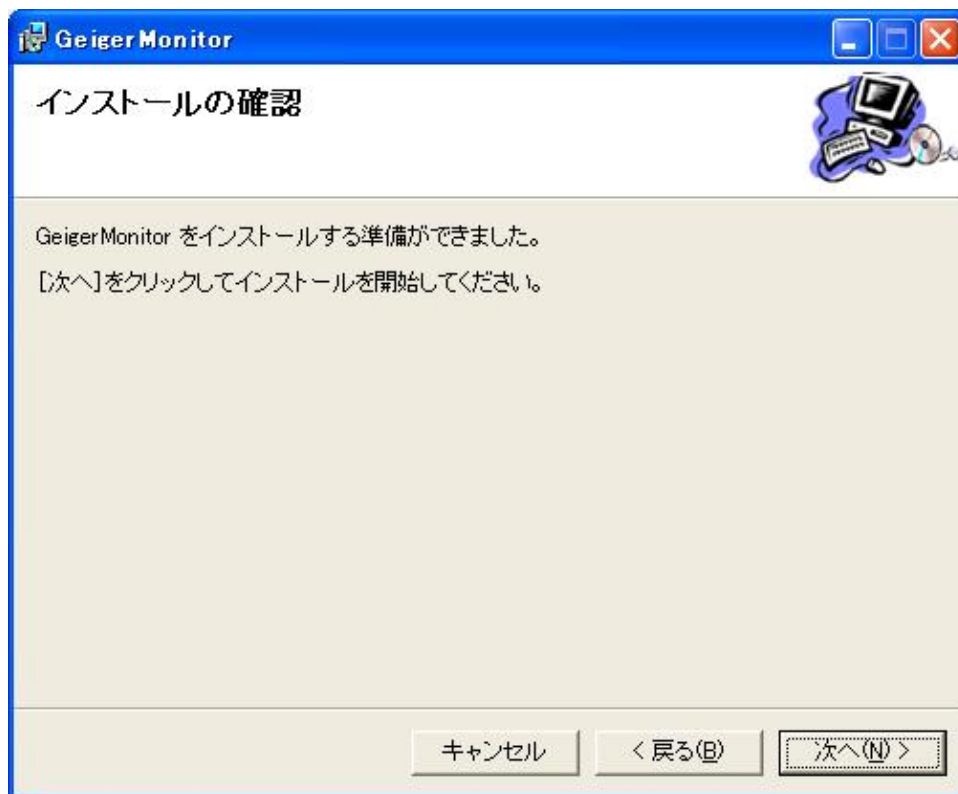
この画面が出たら、「次へ」をクリックします。



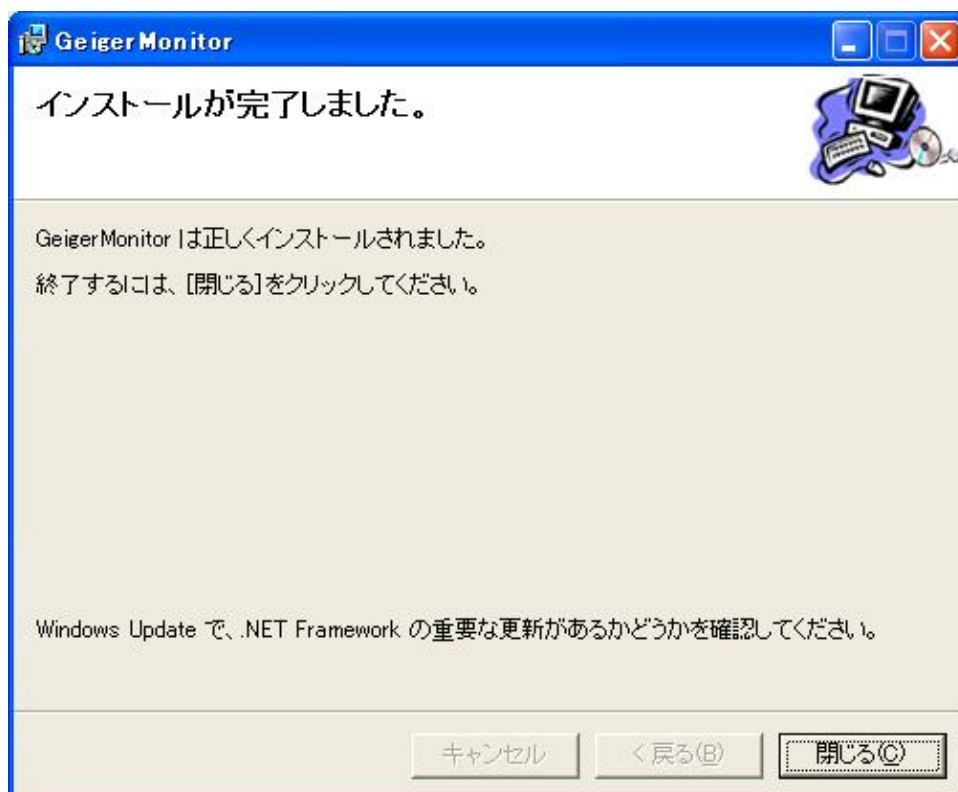
引き続き、「次へ」をクリックします。



Brain Works Inc.



引き続き、「次へ」をクリックします。



これで、セットアップは完了です。

www.bws.co.jp

1.2. プログラムのアンインストール

本プログラムが必要なくなった場合は、以下の手順でアンインストールしてください。

「スタート」「コントロールパネル」「プログラムの追加と削除」を選んで、「GeigerMonitor」を一覧から選択し、削除をクリックします。

2. プログラムの起動

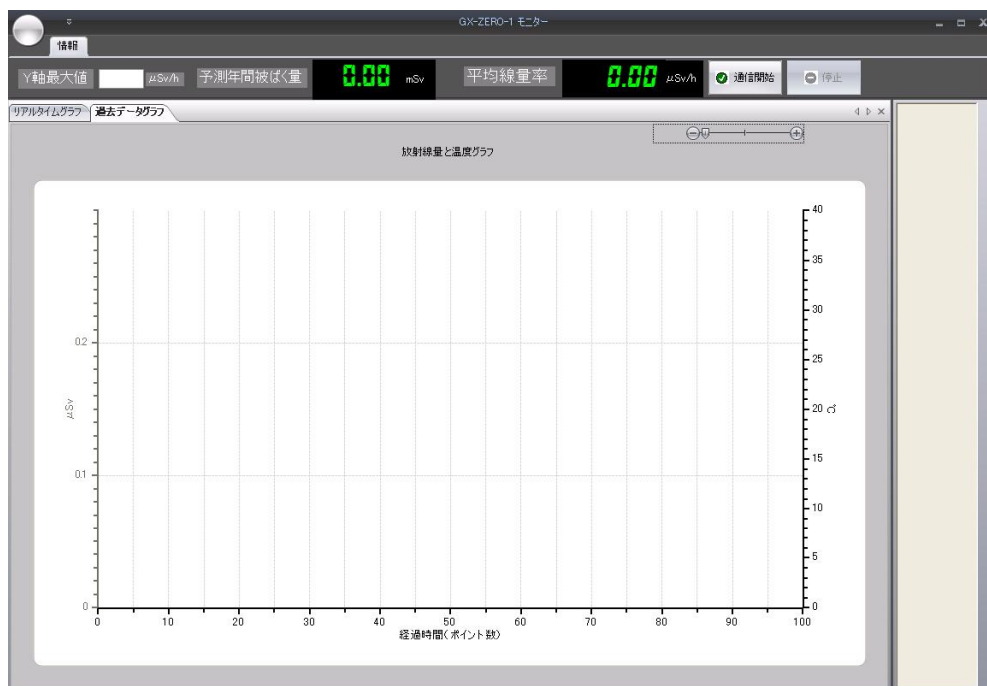
セットアップが終了すると、デスクトップに以下のアイコンが作成されます。



GX-ZERO-1 モニタのアイコン

このアイコンをダブルクリックするか、「スタート」から「全てのプログラム」で「GX-ZERO-1 モニタ」を選択します。

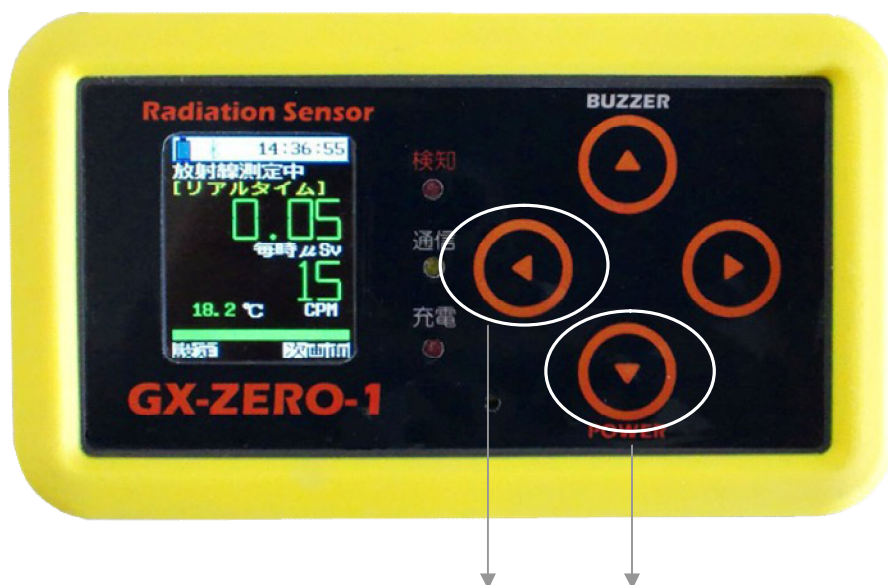
以下のようにプログラムが起動します。



3. グラフ表示する

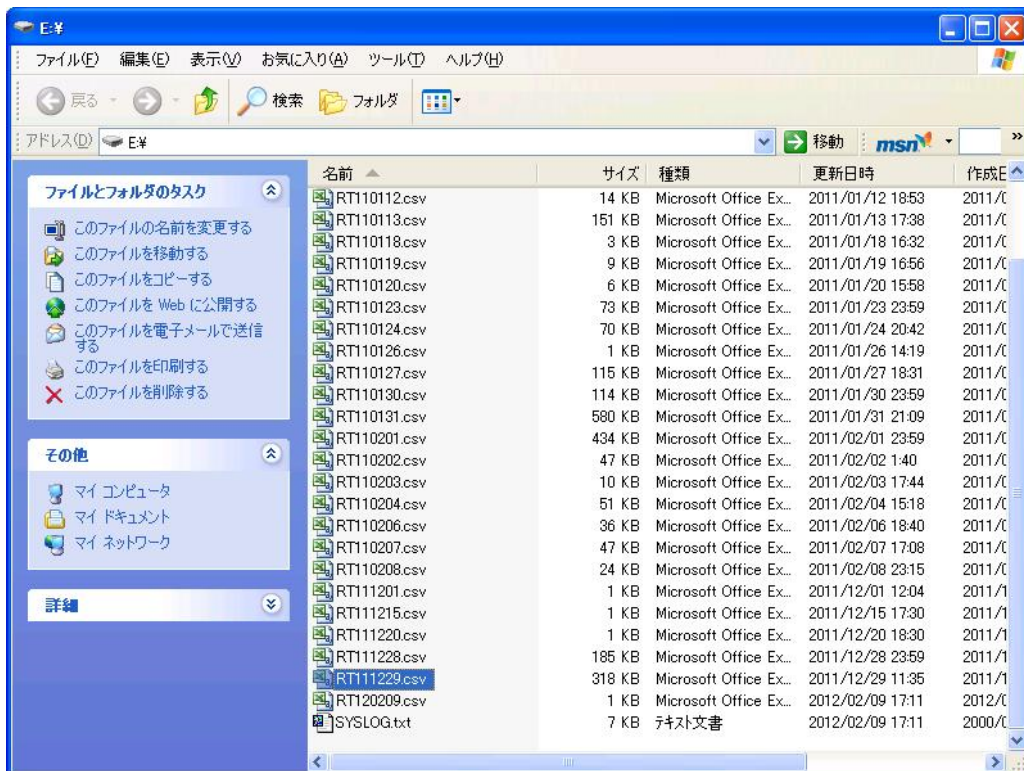
以下の手順で GX-ZERO-1 本体からデータを取り出して、グラフ表示を行います。

1. GX-ZERO-1 の電源が切れている事を確認します。
2. GX-ZERO-1 をパソコンを付属の USB ケーブルで接続します。
3. GX-ZERO-1 の左ボタンを押しながら、下ボタンを押して電源を入れます。



上手く行かなかった場合は、再度電源を切ってやり直してみてください。

4. 本体の「検知」LED と「充電」LED が点灯し、「通信」LED が点滅します。
5. パソコン側で GX-ZERO-1 を認識すると、「大容量記憶デバイスが認識されました」と表示され、以下のような画面が表示されます。
 - ※ パソコンの設定次第では、表示されない場合もあります
 - ※ この場合は、マイコンピュータを開いて、新しい記憶装置が出ていると思いますのでダブルクリックする事でファイルの内容を確認する事ができます。



6. 本ソフトウェア（GX-ZERO-1 モニタ）を起動します。
7. グラフ表示するファイル（日付がファイル名になっています）を GX-ZERO-1 モニタのグラフ上にドラッグアンドドロップします。
 （ファイルを選択した状態で、マウスの左ボタンを押したまま、グラフまでマウスカーソルを移動し、左ボタンを離します）
 画面左上の丸い部分を押すと、メニューが出ますので、メニュー内の「開く」からファイル選択する事も可能です。
8. 以下のようにグラフ生成中のウィンドウが表示され、データの読み込みが完了すると、自動でグラフが表示されます。



9. 同様に、他の日付を見る時は上記を繰り返します。

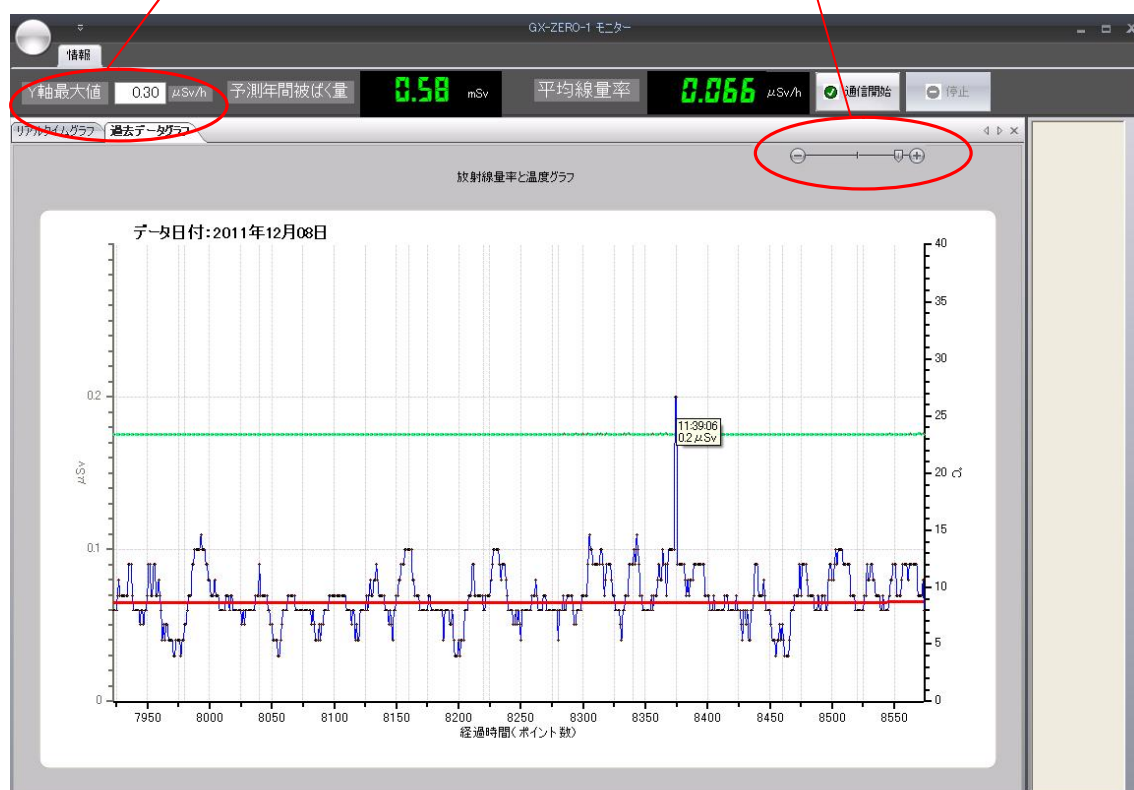
4. グラフを調整してみる

最初に表示されたグラフは、計測ポイントと、最大線量率で最適化されています。

よって、長い時間の測定や、大きな値が計測された場合などによって、細かいデータが見難くなってしまう場合がありますので、グラフを横軸、縦軸に拡大する事が可能になっています。

Y 軸の調整値入力エリア

X 軸のスケール調整スライダ



X 軸のスケールスライダをマウスで右側にドラッグ（左ボタンを押しながら移動）すると、グラフが拡大します。

拡大したグラフ上でマウスで左右にドラッグすると時系列が移動できます。

Y 軸の調整値入力エリアには、 $0.3 \mu\text{Sv/h}$ 以内であれば 0.30 、それ以上であれば最大値で初期化されます。

この値を直接指定する事により、Y 軸のスケール調整が可能です。

5. グラフを印刷する

画面のメニューボタンを押すと、メニューが表示されます。

「印刷」を押す事で、通常使用するプリンタにグラフ領域が印刷されます。



6. グラフを画像出力する

メニューから「書き出し」を選択すると、JPG画像ファイルとして出力する事が可能です。

保存先を選択するダイアログが表示されますので、フォルダを指定して保存します。

7. リアルタイムにグラフ表示する

パソコンに Bluetooth 通信モジュールが搭載またはアダプタが装着されている場合は、GX-ZERO-1 本体のデータをリアルタイムに表示する事が出来ます。



手順は以下の通りです。

- Bluetooth の設定を仮想シリアルポート (SPP) として設定する。
- GX-ZERO-1 の電源を入れて、ペアリングを行う。
- 画面のメニューからプロパティを選択して、通信ポートを指定する。
- プログラムを再起動する。
- 画面上の「通信開始」ボタンを押す。

以上の手順で、GX-ZERO-1 から送られてくるデータをリアルタイムに 3 D グラフで表示を行います。

「停止」ボタンを押すと、データ表示は終了します。

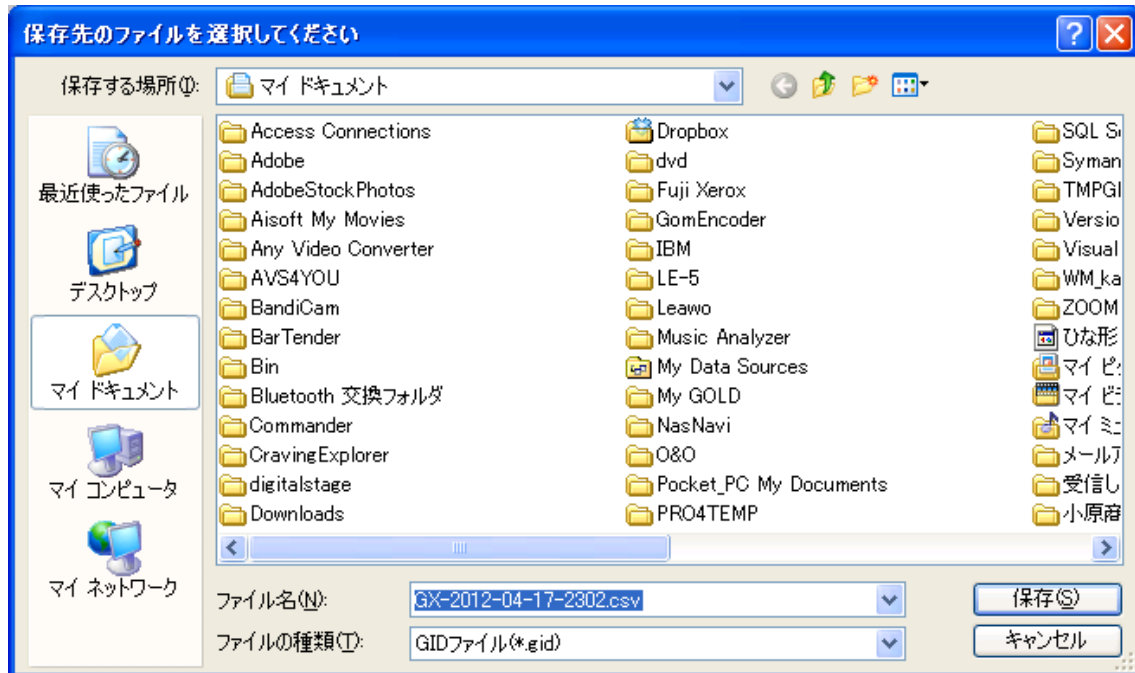
再度「通信開始」を押すと、停止した状態から連続したデータとして表示します。

初期化したい場合は、プログラムの再起動が必要です。

8. リアルタイムデータを保存する

表示されたデータは、CSV 形式での保存が可能です。

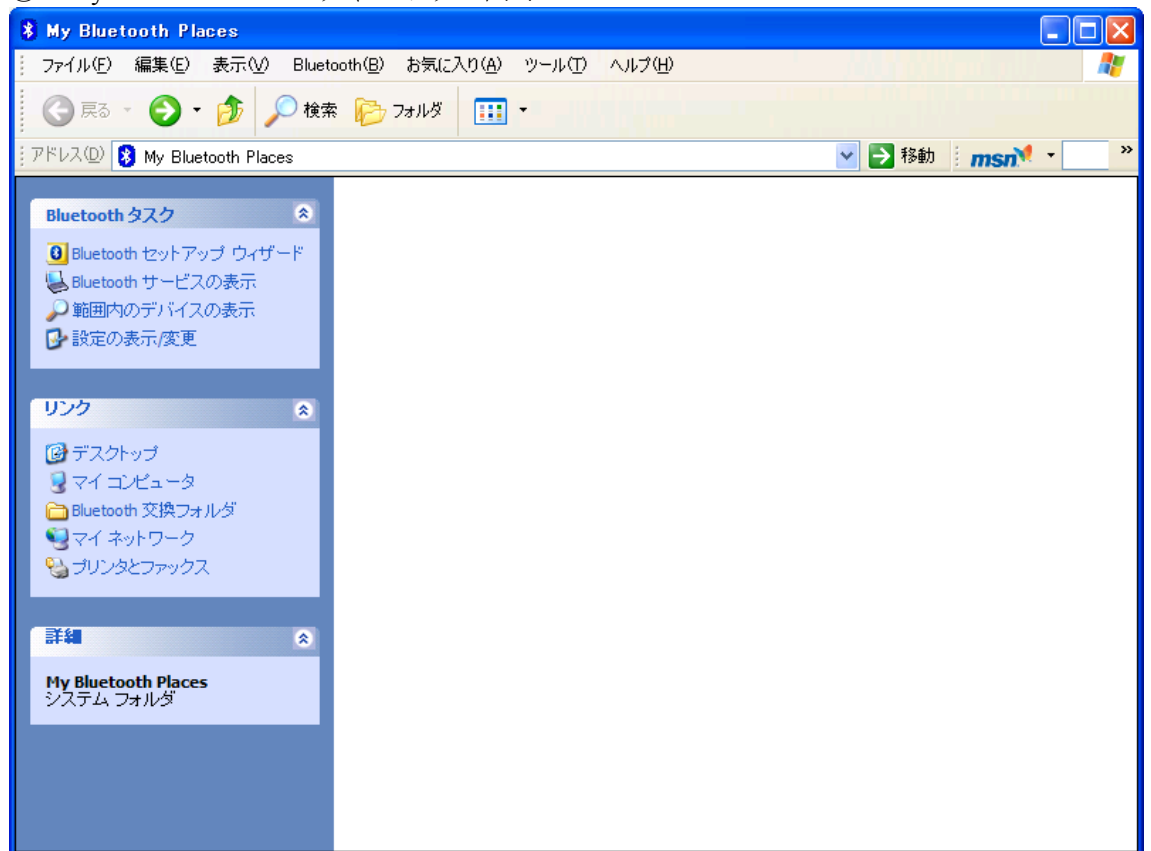
メニューから「保存」を選択し、保存先とファイル名を指定してデータを保存します。



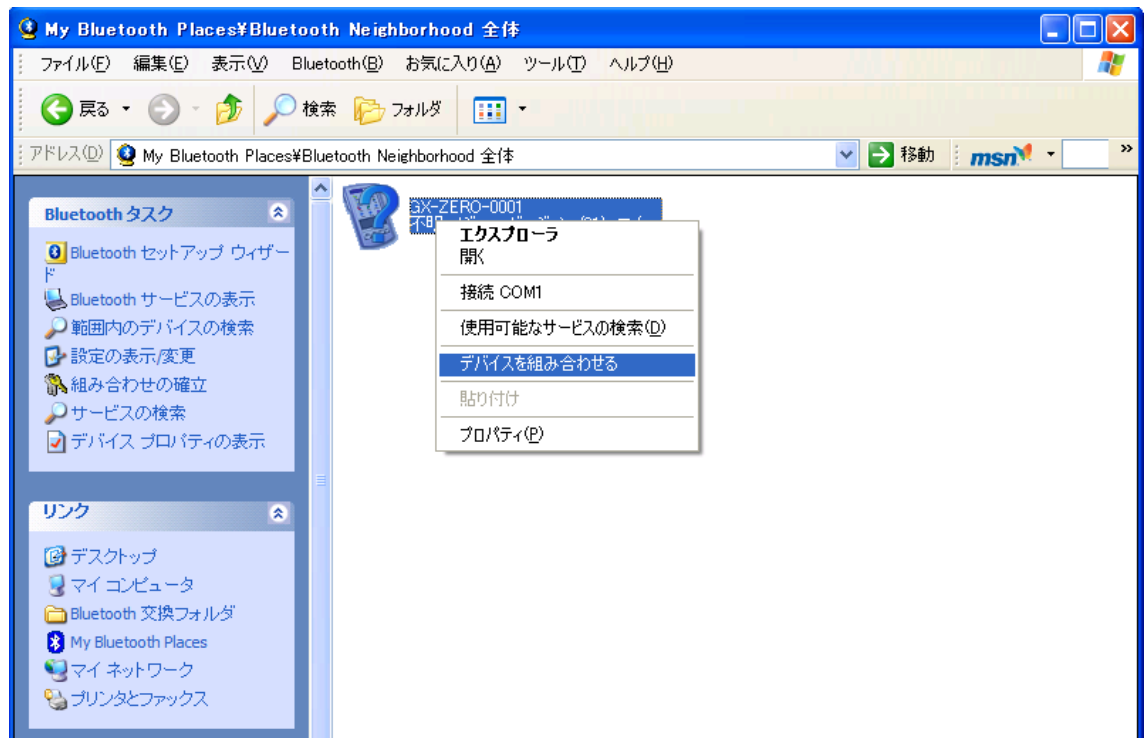
Bluetooth モジュールの設定に関して

パソコン上の Bluetooth モジュールを仮想シリアルポートに設定する方法は以下の通りです。
(WindowsXP で内蔵している場合を例に説明します)

- ① Bluetooth 接続を有効にする
- ② タスクバーの Bluetooth アイコンをダブルクリックする
- ③ My Bluetooth Places ウィンドウが開く



- ④ Bluetooth タスク内の「範囲内のデバイスの表示」をクリックする
- ⑤ GX-ZERO-xxx が表示される



- ⑥ 表示されたデバイス上でマウスの右ボタンを押し、「デバイスを組み合わせる」を選択する
- ⑦ Bluetooth PIN コードの部分に「0 0 0 0」（0を四つ）入力し、「OK」を押す。
- ⑧ チェックマークが表示されたらダブルクリックする
- ⑨ 「未接続」と表示され状態で、右ボタンを押して「プロパティ」を選択する
- ⑩ COM ポートの部分に表示されたポートが実際の仮想 COM ポートとなる

以上で、Bluetooth モジュールの仮想シリアルポートとしての設定は完了です。
モニタソフトの方で、確認した COM ポート番号を合わせて設定してください。